

不戦大学

元特攻兵(回天・伏龍・震洋)

岩井兄弟(99歳・97歳)からの 最後の証言



岩井忠正さん 99歳 太平洋戦争勃発後の1943(昭和18)年12月、学徒出陣として横須賀の海兵団に海軍予備学生として入隊。訓練の過程で特攻隊に志願。人間魚雷「回天」・人間機雷「伏龍」といった特攻兵器の乗組員として訓練を重ねた。二つの特攻部隊に所属した稀有な例だ。

子どもの頃から戦争の不条理さについて考えていたがなぜ志願し、死を覚悟するまでに至ったのか。最後の証言だ。

岩井忠熊さん 97歳 同じ経過で海兵団に入団。兄は対潜学校、私は航海学校で航海士になるための教育を受けた。「生めよ増やせよ」の時代、10人兄弟の10人目で、父は退役軍人。継ぐべき家業もなく「後顧の憂いなき者」として特攻要員を志願。爆薬を積んだモーターボートで敵船へ体当たりする「震洋」の艇隊長に。戦後、歴史研究者の道を歩み、元立命館大学副学長を歴任。今を生きる私たちへのメッセージとは。



◇ 日 時 2019年11月9日(土) 13時30分～17時00分 (開場13時)

◇ 会 場 早稲田大学 9号館・5階 第1会議室

裏面に早稲田キャンスマップ(「第3西門」か「正門」からお入り下さい)

◇ 会 費 1,000円(学生は無料)

井筒高雄さん 50歳 自衛隊が海外の戦場で“殺し殺される”危険が差し迫っているなか、陸上自衛隊で“死の訓練”を受けた元レンジャー隊員の井筒さんが、戦争ができる国に突き進む赤裸々な実態と、いま戦争・戦場体験を引き継ぐことの意味を語ります。



戦争・戦場体験を引き継ごう！ 私たちは悲惨な戦場・戦争を体験し、からくも生きながらえ、極限に追いつめられた人間がどのような行動をしたか、生き地獄絵図を見てきた数少ない生き証人として、“語り部”活動をしてきました。そして昨年創立30周年を迎えましたが、戦後75年を迎えようするいまなお、声高な戦争帰りの動きを目の当たりにして、忸怩たる思いを禁じ得ません。

安倍政権は憲法改悪、戦争への道を突き進む数々の悪政を繰り返しており、戦場・戦争体験を語り、伝えることの大切さを痛切に思い知らされています。不自由な老骨に鞭打って訴えます。兄弟の生の声が聞けるラストチャンスです。戦争・戦場体験を引き継いでください！ 憲法9条を守りぬきましょう！

安部政権は憲法改悪、戦争への道を突き進む数々の悪政を繰り返しており、戦場・戦争体験を語り、伝えることの大切さを痛切に思い知らされています。不自由な老骨に鞭打って訴えます。兄弟の生の声が聞けるラストチャンスです。戦争・戦場体験を引き継いでください！ 憲法9条を守りぬきましょう！



主催／不戦兵士・市民の会 tel 0438-40-5941 fax 0438-40-5942

公益財団法人・政治経済研究所憲法研究室 tel 03-5683-3325

後援／平和を求める自衛官と市民の会 (Veterans For Peace Japan)
わだつみ会 憲法学会 第9条の会・オーバールー東京

キャンパスマップ 早稲田キャンパス

